

## 第15回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時／場所 令和3年8月9日（月・祝）15：00～16：40／WEB開催  
出席者 委員 15名（別添 熊野川懇談会委員名簿 参照）、河川管理者等 7名

### 1. 新宮川水系河川整備基本方針の変更について

紀南河川国道事務所より、第113回河川整備基本方針検討小委員会で審議中の「新宮川水系河川整備基本方針の変更」について、本文（案）を新旧対照表を用いて報告した。

### 2. 河川整備計画の方向性について

熊野川河川整備計画の方向性について、つぎのとおり確認された。

- 1) 熊野川河川整備計画では、河川整備基本方針案で示された24,000m<sup>3</sup>/sの基本高水に対して、概ね30年の段階的な整備目標を定め、河川整備を実施する。
- 2) 計画規模の洪水氾濫を防ぐことに加え、想定し得る最大規模の洪水に対しても氾濫被害をできるだけ減らすよう、流域全体のあらゆる関係者が実施する流域治水により、多層的な治水対策を推進、支援することを河川整備計画に位置づける。
- 3) 河道掘削、地震・津波対策、河川維持、環境整備、危機管理対策、地域住民連携などの取組事例を今後の河川整備計画の実施内容に繋げる。

### 3. 今後の予定

河川整備計画（案）公表までのスケジュールが確認された。

### 4. その他

第15回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用の設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

以上

◆委員からの主な意見（■委員からの意見、⇒回答）

＜新宮川水系河川整備基本方針の変更について＞

- 河川環境の整備と保全に「創出」が加わったことについて、例えばイドミミズハゼのように生態や生活史がよく分からないものも対象に環境の創出をすることは難しいと思うが、国のほうで調査、研究を計画することを考えているのか。  
⇒河川整備基本方針の全体の方針として「創出」まで含めており、河川整備計画をつくっていく中で、河川工事するときに配慮すべき具体的な種や調査を議論し、反映できればと思っている。
- 既存ダムによる洪水調整機能の強化を図る点で、「施設の改良」の相互理解・協力ができるのか。  
⇒「施設の改良」については、ダム管理者との調整を踏まえ、河川整備計画原案に示していきたい。
- 歴史的な観点から「平安時代にはじまった熊野御幸は、鎌倉時代以降、皇族、貴族から武士階級や庶民へと拡がり、「蟻の熊野詣」といわれるほど多くの人々が訪れた。」と直してはどうか。  
(p8 17行目)
- 濁水の長期化が生じる表現については、付け加えられた部分との整合性がとれていないのではないかと。(p13 26行目)
- 観光舟運について、「熊野川中流部では熊野詣を再現した川舟下りや北山川の筏下りなどの観光舟運が盛んで」と直してはどうか。(p13 28行目)
- 河川環境の整備と保全に関しては、これまでの地域の人々と熊野川との歴史的・文化的な関わりを踏まえ、「歴史的な環境に配慮しながら」の表現を入れた方が良い。(p24 63行目)
- 外来種に対して（多様性に対する記載と同じ）「生息・生育・繁殖」の記載は違和感がある。  
(p25 66行目)  
⇒河川整備基本方針本文（案）へのご意見については、藤田委員長に確認のうえ、河川整備基本方針検討小委員会にお伝えする。

＜河川整備計画の方向性について＞

- 河川環境は一度壊してしまうと元に戻らないものもあることから、河川整備計画を考える際には、長期的に達成すべきもの、20～30年後に達成しなければならないもののメリハリを考えてほしい。  
⇒河川環境の保全や整備についても、河川整備基本方針に沿った段階的な取組として、治水事業による河川環境へのインパクトに対して、どういう種や河川環境を守っていくかを河川整備計画に位置づけていきたいと考えている。
- 「最大放流時にダム放流量を低減できるよう」と記載があるが、「明日の熊野川整備のあり方（追記版）」には「最大流入時にダム放流量を低減」と記載されている。どちらが正しいのか確認してほしい。(資料-2 p5)  
⇒事前放流という観点で、適正な表現を検討する。
- 局地的な対策だけでなく、流域内の関係者が連携した対策を実施することが重要とあるが、河道掘削の説明には「持続可能」という表現がある。総合土砂管理も同様に一時的な対策だけでなく、持続可能な対策を実施することが重要であるので、そのような文言を追加した方がよいと思う。  
(資料-2 p6)  
⇒持続可能な対策という文言を追加する。

以 上

資料1 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	所属	備考
井伊 博行 い い ひろゆき	水循環、水質	和歌山大学 システム工学部 教授	
泉 諸人 いずみ もろと	歴史・文化、 観光、林業	浦島観光ホテル株式会社 取締役 浦木林業株式会社 代表取締役	
加治佐 隆光 かじさ たかみつ	水資源工学	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授	
岸上 光克 きしがみ みつよし	農業経済、 地域政策	和歌山大学 食農総合研究教育センター 教授	
清岡 幸子 きよおか ゆきこ	地域の特性に詳しい (新宮市)	元新宮商工会議所女性会 会長	
高須 英樹 たかす ひでき	植物、生態系	和歌山大学 名誉教授 和歌山県立自然博物館 館長	
瀧野 秀二 たきの しゅうじ	水生生物、植物	熊野自然保護連絡協議会 会長 熊野川 河川水辺の国勢調査アドバイザー	委員長代理
立川 康人 たちかわ やすと	水工学 水文・水資源学	京都大学大学院 工学研究科 教授	
中島 千登世 なかしま ちとせ	地域の特性に詳しい (新宮市)	河川を美しくする会 副会長	
早坂 豊司 はやさか とよし	広報・報道	株式会社テレビ和歌山 報道制作本部長	
藤田 正治 ふじた まさはる	河川・砂防、 森林工学	京都大学 防災研究所 教授	委員長
松尾 直規 まつお なおき	河川水質	中部大学 名誉教授	
森 信人 もり のぶひと	海岸防災工学	京都大学 防災研究所 教授	
山本 殖生 やまもと しげお	熊野の歴史・文化 ・信仰	国際熊野学会 代表委員 熊野三山協議会 幹事	
横田 浩 よこた ひろし	発電水力、 水源地域対策	エネルギー戦略研究所株式会社 取締役	